

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

①人間と人間との間の伝達、つまりコミュニケーションには、意識的に「伝える」場合と自然に「伝わる」場合とがある。

どちらが先かという時、人間の成長の上では「伝わる」ほうが先である。お母さんのおなかの中にいる時、胎児は、もう、お母さんの動きに反応している。たとえば、②お母さんが不安になって脈が速くなると、胎児の脈も速くなる。こういう胎児の反応は、超音波で胎児の動きを追うことができるようになって、次々と知られてきている。母親の不安は「伝わってしまう」ので、お母さんが伝えまいと思っても無理である。反対に、ゆっくりと規則正しく打っているお母さんの鼓動はあかんぼうに「確実な」③感で贈る。あかんぼうを抱く時、われわれは意識せずに自然に左を頭にして抱くようにする。こうすると、あかんぼうの耳に抱く者の心臓の鼓動が聞こえる。子宮の中で聞きなれた音だ。これを聞かせると、あかんぼうは確かに③するらしい。抱くとすやすやとねむるといふには、このことが大きいという。

「伝える」ほうはどうだろうか。どうやら、生後三カ月までは、あかんぼうは確かに微笑しているのだが、母親があかんぼうへの愛情を「伝え」ようとほほえみかけても、それを受けてあかんぼうがほほえみ返すということはないらしい。つまり、生後三カ月から「伝える」のを受け取る力が現われる。それまでは、母親の愛情表現に対する手ごたえが現われないから、母親は愛情表現に対する報酬が得られない。生後三カ月までの育児を「無償の育児」ということがあるのは、このためである。

看護でもきつとそういう場合があるだろう。感謝されることは、④正直言つてうれしいことで、はげみになる。しかし、無償の育児のように、無償の看護というものもある。意識のない患者や、感情が表情に現われない精神的な病気の患者などの時には、そういうことがあるにちがいない。

しかし、ある種の精神的な病気の患者の場合には、「注2 抑止」という現象のために表情にも現われず、言葉も出ないけれども、その底で、患者は非常に感謝の気持を持っていることが知られている。老年期認知症の場合でも、⑤表現できないだけの場合がけっこうあるにちがいない、と私はにらんでいる。ある老年期認知症患者は六年間ほとんど⑥無言、無表情で横たわったままであつ

たが、亡くなる年の正月、<sup>⑦</sup>看護師長さんに「長らくお世話になりました」と正座して言って周囲をおどろかせた。それから四月ほどしてロウソクが消えるように患者の命は消えた。そういうことが<sup>⑧</sup>ジツサイにある。意識のないと見られる患者だって、耳はひらいているわけだし、何かが耳から脳にはいつている。意識の回復のために、<sup>⑨</sup>その人が愛していたむすめの声でささやきつづけてもらったことがある。家族が介護に参加した場合のほうが、<sup>注3</sup>昏睡からの回復率が良いという<sup>⑩</sup>ホウコクがある、声というもの、何年たつても、その人独特の音調が同じために、指紋のように声紋が人の識別につかわれる。そういう声が、きつと昏睡している脳のどこかでかぎとなって、それがびったりはまる記憶のかぎ穴を<sup>⑪</sup>サグってゆくのだろう。ある時、カチャリとみごとにはまると、それが脳の活動をうながすきっかけになるわけだ。<sup>⑫</sup>意識のない患者だって、まわりの音に全然関係がないかどうかは疑問なのである。

こういうことをわざわざ言うのは、手ごたえがすぐ返ってこない「伝達」にも、ちゃんと価値があるということだ。なるほど、手ごたえのない仕事はやりづらい。ついつい<sup>⑬</sup>手をぬくことにもなりかねない。たぶん、看護の仕事が大部分、女性にゆだねられているのは、女性には、母親になるために、「無償の育児」のような、見返りなしで介護するという能力が男性よりもそなわっているからではないか。そんなことがあるかもしれない。

『「伝える」ことと「伝わる」こと』 中井久夫

注1 認知症・・・人間が本来持っている記憶力や判断力などがひどく低下し、日常生活に差しさわりが出る病気。

注2 抑止・・・病気のために情報を処理し適切に判断することや自分に関する大きな決断をすることができなくなる事。

注3 昏睡・・・意識が完全に消失して、めざまさせることができない状態。

問一 — 部①「人間と人間との間の伝達、つまりコミュニケーションには、意識的に『伝える』場合と自然に『伝わる』場合とがある」とあるが、— 部②「お母さんが不安になって脈が速くなると、胎児の脈も速くなる。」— 部⑦「看護師長さんに『長らくお世話になりました』と正座して言って周囲をおどろかせた。」は、『伝える』場合、『伝わる』場合」のどちらの例であるかを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 「伝える」場合      イ 「伝わる」場合

問二 — 部③に入る最も適当な漢字二字を書きなさい。

問三 — 部④・⑥・⑧・⑩・⑪の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

問四 — 部⑤「表現できないだけの場合」とはどんな場合のことか。文中の言葉を使って分かりやすく説明しなさい。

問五 — 部⑨「その人が愛していたむすめの声でささやきつづけてもらったことがある。」とあるが、筆者はなぜそのようなことをしてもらったのか。四十字以上五十字以内で解答らんにか合うように書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問六 — 部⑫「意識のない患者だつて、まわりの音に全然関係がないかどうかは疑問なのである。」とあるが、「意識のない患者」と「まわりの音」との関係について、筆者が自分の考えを述べている一文をぬき出し、最初と最後のそれぞれ五字を書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問七 — 部⑬「手をぬく」の「手」と同じ意味の「手」をふくんでいる言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 手が足りない。      イ これ以外に手が無い。      ウ 手がかかる。      エ その手はくわない。      オ いい手が来る。

問八 本文を通して筆者が最も伝えたいと考えていることは何か。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間と人間との間の伝達には、「伝える」場合と「伝わる」場合とがあるということ。

イ 「伝える」場合の伝達よりも「伝わる」場合の伝達の方が人間にとって重要だということ。

ウ あかんぼうは自分から母親にほほえむけれど、ほほえみ返すことはないのだということ。

エ 手ごたえがすぐには返ってこない「伝達」にもちゃんと価値があるのだということ。

才  
意識のない患者を介護することは、看護師にとって非常にやりづらいのだということ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

〈運動も勉強も得意なトシは学年の人気者だった。しかし万引きをしたといううわさを持つ、気の弱いワタルと仲良くなったことで、トシまで周囲から孤立こりつしてしまう。嫌いやがらせをしてくるアカリが、トシに大差をつけて学級委員長に選ばれたこと

で、トシはそれまで我慢がまんしていた悲しさや悔くやしさを表に出し、長年の夢だった児童会長への立候補を決意する。〉

選挙当日、応援演説。

児童会長候補の演説は、集会の中では一番最後に行われる。ワタルの応援演説は、最後の最後で行われた。

壇上だんじょうに上ったワタルは気の毒のみになるくらい緊張きんちようしていた。

① 不自然に動く。その様はまるでロボットみたいだ。トシはすでに演説を終えていたが、自分の時よりもワタルのことの方がずっと心配だった。おかげで自分の時はそれほど緊張しなかった。

マイクを前にワタルが立つ。演説が始まった。

『こんにちは』

マイクを通して、ワタルの言う。その背中を見つめながら、トシは頑張がんばれよ、と心の中でエールを送る。② 別にもう、トシは落選してもいい。だけど、ワタルにはしっかりと自分の仕事をして欲しかった。

『今日は、トシちゃんの応援演説をするために、みなさんの前に立たせてもらいました。③ 今まで、こんなふうに必要な前で演説することはなかったのです、今すごく緊張しています。でも、こんなぼくが無理をしてみんなの前に出てきたのには理由があります。それは、ぼくはトシちゃんにすごく児童会長になって欲しいからです。……トシちゃん自身のためにも、学校のためにもです』

ワタルは息つきをする。一度④ ハツセイしてしまったことで覚悟かくごが決まったのか、声の調子が段々と整っていく気がした。マイクの前に顔をまた向ける。

『トシちゃんは、とてもかわいい顔をしています。スポーツ万能ばんのうだし、頭もいいし、お家もお金持ちです。お母さんはお医者さん

で、お父さんは国会<sup>⑤</sup>ギインです。トシちゃんはいろんなことを知っていて、何でもできます。本当に何でもできます。ところで』前を向くワタルの顔を斜め<sup>なな</sup>から見ていると、トシには気づくことがあった。ワタルの顔はずっと前を見つめている。手元の原稿用紙を見ていなかった。

『ところで、話は変わりますが、トシちゃんは今クラスで仲間はずれにされています。上履<sup>うわば</sup>きを隠<sup>かく</sup>されたり、この選挙のポスターも貼<sup>は</sup>つても貼<sup>は</sup>つてもすぐに破かれていました。⑥でも、それはトシちゃんのせいじゃありません。おれのせいです。おれと、いじめているその人たちのせいです』

候補者席のアカリの手が、ピクリと動いた。ワタルは続ける。

『おれは嫌<sup>きら</sup>われてたから、トシちゃんはおれと仲良くしたら仲間はずれにされました。もし、トシちゃんが仲間になってくれなかったら、仲間はずれにされたのはおれ一人だっと思います。おれ、トシちゃんが仲間はずれにされてる間、何人かに言われました。トシちゃんと友達をやめたら、ワタルくんには⑦ヤサしくしてあげるって言われました。一緒にトシちゃんのことを一人ぼっちにして、はずしていじめようって。でも、それは嫌でした。それだけは嫌でした。……仲間ははずれにされてもどんなひどいとされても、トシちゃんがおれと友達になったことを後悔<sup>こうかい</sup>してないことを、おれ、知ってたからです』

⑧ワタルは長く息を吐<sup>は</sup>く。また吸<sup>す</sup>って、そして話し始める。

『トシちゃんは多分、すごくまぶしい光です。強すぎる光だから、みんな側<sup>そば</sup>に寄って来ます。何でもできる、何でも持っているトシちゃんがうらやましくて、みんな友達になろうとします。でも、なれない人もいます。光が強いから、それに耐<sup>た</sup>えられなくなつて、それが手に入らないことがよくやしくて、友達をやめていく人もいます。そしてそういう人はトシちゃんのことをいじめたり、悪く言います。初めからトシちゃんとなんか友達になりたくなくなつたんだ、トシちゃんのことなんか最初から嫌いだったんだと思う方が、トシちゃんの強い光に耐えて友達にいるより、ずっと⑨カンタンだからです。

でもそれは、トシちゃんのせいじゃありません』

集会の最後なのに、無駄口<sup>むだぐち</sup>を叩<sup>たた</sup>く生徒<sup>だれひとり</sup>が誰一人としていなかった。

『おれも、トシちゃんのことやらやましい時がたくさんあります。トシちゃんと比べて、何でおれはこんななんだろうと落ちこむこともありました。でもおれは、トシちゃんと友達でいることに決めました。絶対にトシちゃんを妬ねたんだりしなくて済むように、トシちゃんの友達にふさわしい男になろうって決めました。』

これはトシちゃんにも話したことがないから——』

ワタルが照れたように笑った。

『トシちゃんは今、<sup>⑩</sup>そんなことする必要ないって言うかもしれません。それでも友達でいてくれるって言うかもしれません。でも、これはトシちゃんじゃなくて、おれの問題です。おれがトシちゃんの友達でいたいから、いたいなら追いつかなくちゃダメなんです。そうでないと、おれがトシちゃんをまぶしくなって離はなれて行っちゃうかもしれないから。トシちゃんの悪口を言うようなことだけは、絶対にしたくありません』

ワタルが顔を<sup>⑪</sup>ふいに下に向ける。その場で目が合った先生に尋たずねた。マイク越こしのでかい声で。

『すいません、演説の時間もうおしまいですか。やめた方がいいですかー？』

ワタルの声に、生徒の中からどつと笑いが起こる。その時だった。体育館の後ろから「続けるー」という声が聞こえた。マイクのワタルの声に負けない、大きな、ハヤカワ先生の声だった。

「<sup>⑫</sup>カマカわわないよ、続けなさい。先生が聞きたい」

『ありがとう、先生』

ワタルはにっこりと笑った。先生に向かって親指を立てた。体育館の後ろ、先生がそれに同じ手の形を返すのが見えた。

『ええと、だからね、トシちゃん』

後ろにいるトシシに向けて、前を向いたままワタルは言った。

『トシちゃん、どこに行っても何になってもいいんだよー』

そう叫なんだ。

『どこに行っても、何になっても、おれは絶対に追いつくから。追っかけてくから。トシちゃんの友達でいるために、ずっと努力するから。空手も勉強も頑張るから。だから、トシちゃんは後ろのことなんか見なくていいです。すごいものを手に入れて、すごい人になってください。まずは』

ワタルがとびきり大きく息を吸い込んだ。

『児童会長になってください。みんな、トシちゃんをよろしくお願いします』

そう言って、**⑬**頭を下げる。あたりがしんと、静かになった。

拍手が、他の演説より一呼吸遅くやってきた。それを受けて、ワタルがうれしそうにへへっと笑う。注傷だらけの顔が、満足そうな笑顔を作った。

応援演説の内容じゃないよな、とトシは思う。応援演説はもっと、会長になったらきつとこうしてくれるとか、すごく本人にやる気があるとか、そういうことを訴えるためのものだ。ワタルはそこをちょっと勘違いかんちがしている。が、もうこれ以上は何もいらな  
いと思った。

そうだよ、ワタル。後悔してない。**⑭**お前と友達になれて本当に良かった。

『ロードムービー』辻村深月

注 傷だらけの顔・・・アカリが仕向けた中学生達からトシをかばったことで、ワタルはひどいけがを負っていた。

問一  部①・⑬に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二回用いてはいけません。)

ア 深々と    イ しみじみと    ウ ぎくしゃくと    エ もじもじと    オ うずうずと

問二 —— 部②「別にもう、トシは落選してもいい。だけど、ワタルにはすっかり自分の仕事をして欲しかった」とあるが、トシはなぜこのような気持ちになったのか。その理由を説明した次の文の  部 A ～ D に当てはまる言葉を、それぞれ指定した字数で文中からぬき出しなさい。

気の弱いワタルが、見ている側が心配になるくらい  A (二字) しているが、  B (二字) をして人前に出て、  C (二字) のために  D (四字) をしようとしている姿を見ると、トシはうれしくて、ワタルを応援せずにはいられなかったから。

問三 —— 部③「今まで」はどの言葉にかかるか、五字以内でぬき出しなさい。

問四 —— 部④・⑤・⑦・⑨・⑫のカタカナを漢字に直しなさい。

問五 —— 部⑥「でも、それはトシちゃんのせいじゃありません。おれのせいです。」とあるが、なぜ「おれのせい」なのか。文中の言葉を使って、三十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問六 —— 部⑧「ワタルは長く息を吐く。また吸って、そして話し始める」とあるが、後に続く「ワタル」の演説で述べられている、「トシ」が仲間外れにされている理由として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何でも知っているトシのことが本当に嫌いで、トシが活躍かつやくすることが気にくわなかったから。

イ いろんなことができるトシを本当は尊敬しているが、自分達のこともとたよりにしてほしいと思っていたから。

ウ かわいくて勉強もできるトシに本当はあこがれているが、はずかしくてすなおになれなかったから。

エ 何でもできるトシに本当はひかれているが、自分達がトシのようになれないことがくやしかったから。  
オ 勉強も運動もできるトシのことが本当に苦手で、トシとは関わりたくないと思っていたから。

問七 — 部⑩「そんなことする必要はない」とあるが、「そんなこと」とは、だれが、どうすることを指すか。文中の言葉を使って、三十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問八 — 部⑪「ふいに」の意味として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 平気で    イ ゆっくりと    ウ なにげなく    エ 急に    オ あわてて

問九 — 部⑭「お前と友達になれて本当に良かった」とあるが、「トシ」が「ワタル」に対してこのように思う理由として当てはまるものを次の中から三つ選び、記号で答えなさい。

ア トシのために勇気をふりしぼって行動してくれたから。    イ トシのことを思っただけでトシの短所を注意してくれたから。

ウ いじめられていたトシのことをあわれんでくれたから。    エ トシの持っている夢を全力で応援してくれたから。

オ トシの持っている長所をまっすぐ認めてくれたから。    カ トシを気づかせておせじを言ってくれたから。

問十 本文の登場人物の説明として当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア トシとワタルは、お互いのことを想い合う、仲の良い友達である。

イ アカリは、トシがいじめられているという話が出た際に反応した。

ウ 生徒たちは、一生懸命に話し続けるトシの演説に聴き入っていた。

エ ハヤカワ先生は、時間を気にせず演説を続けるように呼びかけた。

オ ワタルはトシのことをうらやましく思い、落ちこむことがあった。